



† 複十字病院だより

〒204-8522 清瀬市松山3-1-24
TEL : 042-491-4111 <http://www.fukujuji.org>

【発行責任者】 院長 後藤元



越前国一乗谷朝倉氏遺跡。当時の町並が復元され、戦国時代にタイムスリップすることができます。

巻頭言 ハロー効果と病院選び

副院長 尾形英雄

猛暑日の記録が更新されるほど暑かったのに、お盆を過ぎから急に涼しくなって残暑のないまま長雨が続く短命の夏でした。猛暑の盛りに、上野にいく用事についてに科学博物館に立ちよって「生命大躍進展」をみてきました。40億年前の生命誕生から20万年前のホモ・サピエンス誕生に至る脊椎動物の進化の道のりを、化石や復元模型でリアルに展示していました。アフリカで誕生した新人類のホモ・サピエンスは、7万年前にアフリカを旅だって、各大陸に棲んでいた大型哺乳類や旧人類を打ち倒して世界征服を果たしたのです。この世界征服の旅の過程で、ホモ・サピエンスは食を得るため、この地に留まるべきか新天地に向かうべきか行動したはずです。

心理学によれば、人の脳は直感とも本能的ともいわれる瞬間的判断と、ゆっくりと時間をかけておこなう合理的判断のふたつを働かせて行動を決めるそうです。瞬間的判断は、人が熊や蛇など危険な外敵に遭遇したときに、瞬時に逃げる・闘うなどの行動を決める時に働きますが、後で考えても何故その行動をしたか判らない潜在意識下の判断です。A店のバックかB店の時計を女性にプレゼントする時は、時間があるので女性の好みや自分の懐具合などを天秤にかけて合理的判断をして相手の喜んでくれる方を選びます。しかしA店の雰囲気がよくて気の利いた美人店員が対応してくれたのに、B店が真逆だと、瞬間的判断が合理的判断に影響を与えて、バックにプラス評価をします。これをハロー

効果といい広告会社はこれを狙って、コマーシャルで見事な自然風景やよいイメージの芸能人を見せてから商品をだすと、視聴者はプラスのイメージを商品に持つといいます。

患者さんの病院選びや医師選びにも、このハロー効果が働きます。初めてきた病院で緊張しながら患者さんは、病院の外観・駐車場での応対・玄関ホールの雰囲気などを瞬時に評価しながら院内に入ります。総合案内や外来受け付けでの病院職員の応対・待合室の雰囲気や待ち時間・診察室に入る他の患者さんの様子など、瞬間的判断が無意識に病院への評価を決めていきます。自分の番が来て診察室に入ると、瞬間的に担当医の表情・声かけ・態度などに好悪の評価を下します。プラスのイメージであれば、その後の医師の説明や検査の同意も速やかに進みますが、その逆ならいかに正しい医療であっても患者さんの同意はなかなか得られません。

この機関誌の名前の「あかれんが」は、来年で築40年となる本館の外観からきています。外観はよくてもオイルショック時に建った本館は、玄関ホールの天井が低く、改装しても照明が明るくならず、ハロー効果の点ではマイナスです。改装を経て本館病室の質は改善しましたが、いかんせん入院設備全体の老朽化は否めません。診療報酬のマイナス改定や消費税問題など、医療界にとって逆風が吹く中ですが新館建設に進む時が来たと思います。

new!

新 医 師 の 紹 介

呼吸器センター専門医



みや もと
宮本

まさ
牧

7月中旬から勤務させていただいております宮本牧と申します。

平成11年に千葉大学を卒業後、さまざまな病院でお世話になりながら臨床の仕事を続けてまいりました。6月末までは東村山市の多摩北部医療センターに勤務しておりました。

近年、患者さんの高齢化が進んできていることに伴い、呼吸器疾患以外にも複数のご病気を抱えている方が非常に多くなってきてるようと思われます。各科の先生方や検査科、スタッフの皆様にご指導をお願い申し上げることも多いかと思います。なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。

また、呼吸器疾患に対する治療そのものの個別化が模索される一方で、患者さんそれぞれの抱える基礎疾患や生活環境によって、同じようなご年齢であっても治療にかかる状況の多様化が進んでいるように感じます。できるだけ、患者さんやご家族様、地域の医療関係者の皆様のお話を拝聴しつつ、治療やご療養のご相談を進められるよう心がけたいと思っております。ご意見、ご指導を賜りたく、重ねてお願い申し上げます。



たけうち
竹内 均

- 配属先／放射線診断科
- 出身地／広島県廿日市市
(安芸の宮島があるところです。)
- 出身大学・卒業年／
広島大学
平成14年卒

【大学卒業後の主な経歴】

山口大学病院、国立大阪病院、国立がんセンター中央病院、女子医大病院、災害医療センター、多摩総合医療センター

【専門医・認定医資格】

日本医学放射線学会診断専門医

【趣味及び特技】

0歳、3歳児の子守

【患者様へのメッセージ】

患者さんに優しい手技をこころがけております。

当院ご利用の患者さん・ご家族、そして地域の皆様へ



当院は東京都の『がん診療連携協力病院』です。

“がん相談支援センター”がありますので
どうぞご利用ください。

あなたの気がかりは、どんなことですか？

- “がん”かもしれない、“がん”と告知されて不安で仕方がない。
- 説明された内容がよくわからないし、なかなか質問できない。
- 現在、受けている治療以外の選択はあるのだろうか。
- 退院してから、自宅でどう生活したらいいのかわからない。
- 仕事は辞めなくてはならないのだろうか。
- 抗がん剤や手術の費用はどれくらいかかるのだろう。
- 自分の希望や思いを主治医や家族に伝えたいが、なかなか言えない。
- 緩和ケアはいつから始めればいいのだろうか。
- 母や叔母が乳がんに罹っているが私は大丈夫だろうか。

がん相談支援センターは
患者さんやご家族のために
寄り添い
ともに考え、ともに歩みます

私たちと一緒に
その気がかりや悩みを解決する
ヒントを見つめましょう

★がん相談支援センターは当院の患者さんだけでなく、どなたでもご利用いただけます。

★相談方法は面談または電話で。相談料は無料です。

受付時間 8時30分～17時（土曜日：8時30分～12時） *日曜日・休日以外

場所：1階正面玄関を入って右側（医療連携室が窓口です） ☎: 042-491-9128

『ホットシート』のご紹介

お気づきの方も多いと思いますが、院内1階の廊下に4席の「ホットシート」を設置しました。黄色とアイボリーの明るい色のソファーです。

当院には230名を超える在宅酸素の患者さんがいます。また入院している方も酸素吸入していたり、術後であったり、治療のため体力が落ちていたりします。診察や検査の時や、体力を回復するために懸命に散歩する患者さんが立って休憩している姿を時々見かけ、苦しくて疲れた時に休めるところが必ずあつたら安心だろうと思い今回優先席として用意させていただきました。両肘も乗せられるので息切れも早く回復できると思います。

設置時「座るとあったかいの？」と数名の方に聞かれましたが、「ホット」はhome oxygen therapyのことでhot（暖かい）ではありません。

でも、譲って譲られて息も身体も心もホッと温かく楽になる、そんな優しい椅子であつてほしいと願っています。どうぞご利用ください。



ボランティアさんの紹介



結核予防会キャラクター
シールぼうや

相談支援センターボランティア 白土 志げ子

最初にこの活動に参加した動機を述べたいと思います。

私は2015年5月14日で当院を退職致しまして、在職中からボランティアの話を持ち出したこともあります。この活動の話が出された時は正直申しまして、私事の時間が増えることと今までの経験がここで生かしていく（社会との繋がり）という安ど感と嬉しさが小さく湧き上りました。今回の立ち上げには病院側の働きかけもあり、6名のボランティアスタッフが揃いました。ボランティア経験のある方はお一人ですが、病院内での活動はみんな初めてです。スタッフの中には医療関係の学校で勉強している学生もあります。将来、医療の一端を担う人材として、複十字病院のボランティア活動が充実したものであったと思ってもらえるような内容になれるよう願っております。

そのためには職員の皆さんのご教示をお願いすることになると思いますが、その折にはよろしくお願いいいたします。

私たちの活動は患者さんやご家族のご案内がメインです。車いすの使い方や介助の仕方については未経験の方もおりますが、個人に適した介助が出来るよう学習していきたいと思っております。活動時間と曜日は、月・火・水・木の四日間、AM8:30からAM11:30までですが、ボランティア活動は単なる無報酬活動というだけでなく、あくまでも個人の自由意思によるもので、奉仕とは異なると考えます。今回の新しい活動に伴い制服もできました。結核予防会のマークである可愛いシールぼうやのイラスト付きのグリーンカラーのチョッキです。

不慣れな部分が多くありますが、スタッフ一同複十字病院を訪れる皆さんのが自分の目的を達せられるよう、支援の一部を担いたいと思っております。院内でお見かけのときはお声かけください。



相談支援センターボランティア 森 忠義

5月下旬からボランティアとして患者さんやご家族のご案内をしています。

3年前、リタイア後、余暇の有効活用で清瀬市社会福祉協議会（社協）主催の料理教室に参加しました。この時、社協の職員さんからボランティア活動をしてみませんかとお誘いを受け、初めてボランティア活動に参加しました。本年4月に社協の職員さんから複十字病院のボランティアのお話を伺い、日ごろ家族ともども、お世話になっているので応募しました。

活動内容は、相談支援センターの下で、主にエントランスにて再診受付機の操作のお手伝い、各受診科へのご案内、車いすの補助、患者さんからのさまざまご質問に対して職員の方々への仲介など、患者さんからお声をかけられたことへの対応をしております。

始めて2日目に“PETはどこ？”との質問にうまく答えられなくて、もたもたしていたら、“もう、いい！”と患者さんを怒らせたこともあります。今では、特殊なことでもない限り、対応できるようになりました。難しいのは、どこまで援助すべきかが患者さんによって違うことで、この点は、日々経験を積みながら、皆さんに喜んでいただけるよう努めています。

最後に、私は愛知県に生まれ、高校・大学時代は福岡市で過ごしました。45年前、電気系の技術者として東京地区へ、20年前から清瀬市の住人となりました。お陰さまで、年相応の健康上の衰えや不具合はあります、元気です。地域の皆さんへの一助となるよう努めさせていただきたいと思います。





複十字病院で 「奉仕」体験活動を行って

東京都立清瀬高校 1学年担任 堀江 一美

都立高校では、教科「奉仕」として教室を離れた体験活動を実施していますが、清瀬高校では、地域のみなさまのご理解とご協力をいただいて「清瀬」に密着した活動を行っています。とりわけ隣接する複十字病院には、年間を通じて大変お世話になっています。今年度も1学年277人の生徒を受け入れていただき、6月には院内の草取りをさせていただきました。病院スタッフの方々のご指導の下、生徒たちは慣れない鎌で夏草と格闘し、終了時には、院長先生からねぎらいのお言葉までいただいて、大変貴重な経験となりました。今後もお邪魔する予定があります。どうか引き続きよろしくお願ひいたします。

以下は、生徒たちの感想です。

*去年も清高生が草むしりをして、きれいになり、花壇ができたと聞いて、私たちの代もしっかりやらなければいけないと思いました。



*入院されている人、通院されている人が少しでも「きれいだな」「気持ちいいな」と思ってもらえるように頑張りました。



*抜いても抜いても減った感じがしませんでしたが、ビニール袋の中には草がどんどんたまっていきました。

*目立たない仕事ですが、誰かがこの除草作業をしなければなりません。こんな風に普段気付いていないだけで誰かがしてくれることによって守られていることがたくさんあるのではないでしょうか。誰かがやってくれていることの「誰か」に、私も参加できるようになりたいと思いました。

*最初は虫や草がすごい量でどうしようと思っていたましたが、やっていくうちにだんだん楽しくなってきました。

*慣れないカマや根を張った雑草によって作業が思うように進まず、もっと時間があったらさらによくなっていたのにと思いました。

*自分がきれいにした範囲は少なかったけれど全体で見るととても前より整っていてみんなで協力する力はすごいなと思いました。

*病院のスタッフの方が、病院を利用している方達にとても気を使っていて、利用者の方達のことを大切に思っているのがよくわかりました。

*普段は、家の草むしりなどしないので、学校での活動だからするのではなく、自分の家でも積極的に取り組んでみようかなと思いました。



*私たちが清瀬のために何かしらと思っても実際に思っているだけで行動に移すのは難しいと思います。そんな中で今回の事は良い機会だったと思いました。



第65回 日本病院学会に参加して

事務部 経理課 課長代理 荒井 友範（医療経営士3級）

6月18～19日軽井沢で行われた日本病院学会に参加させていただきました。学会では医師、看護師、コメディカルから事務員まで幅広い職種による発表が行われました。私は人材育成・職員教育の分野で「事務部の積極的な自己改革ーまずは勉強会立ち上げからー」と題し事務部の自主勉強会について発表を行いました。発表には多くの方が興味を持ってくださいり、参加者からは貴重なご意見を沢山いただきました。他病院でも事務員教育に課題を抱えていることを知り、有意義な意見交換もできました。発表をきっかけに雑誌『医事業務』で「病院事務職のキャリアプランを考える」と題し私たちの勉強会を取り上げてくださいました。庶務・経理・医事課3課合同で行っていること。他部署に講師依頼し、体験型学習を取り入れながら院内業務を学んでいることが評価されてのことです。

勉強会運営を通じて医療業務全般について体系的に学びたいと考え医療経営士3級（一般社団法人日本医療経営実践協会認定資格）を取得しました。今後は協会が主催する研究会や学会に参加し知識の幅を広げていきたいと考えています。学んだことは担当業務や自主勉強会にいかし、複十字病院の運営に微力ながらも貢献できればと考えています。

事務員が学会に参加するということを考えたことはありませんでしたが、他病院事務の取り組みを知ることができ、自分にない発想に刺激を受ける良い機会となります。現在後輩事務員と来年の学会を目指し取り組み中です。共に切磋琢磨し成長していきたいです。

複十字病院登録医会「第13回定期総会・学術講演会」 が開催されました

2015年6月27日（土）16時30分より結核研究所4階講堂において、「複十字病院登録医会第13回定期総会・学術講演会」が開催されました。当日は登録医の先生方及び地域の先生方、結核予防会関係者、当院の職員等約100名が参加し、はじめに定期総会を開催して2014年度の事業報告・2015年度の事業計画及び登録医会幹事会について了承されました。17時から下記テーマで学術講演会を開催し、各講演の後には活発な質疑応答が行われました。



講演会の様子

【予防医学に基づいたCOPD（慢性閉塞性肺疾患）の管理】

・「安定期COPDの管理における増悪予防の重要性」

複十字病院 呼吸ケアリハビリセンター長 吉田直之

・「潜在するCOPD～早期診断における検診の役割について～」

複十字病院 健康管理センター診療科主任 上山雅子



特別講演（千住部長）



挨拶（代表幹事 中川先生）

特別講演

「呼吸リハビリテーションの現状と課題」

複十字病院 呼吸ケアリハビリセンター付部長 千住秀明

講演会終了後に、結核研究所1階に場所を移して恒例の懇親会が開催され、中川勝先生（登録医会代表幹事）がセレクトされたワインを堪能しながら、登録医の先生方との親睦を深めました。

複十字病院登録医会

複十字病院登録医会幹事会 代表幹事 中川内科小児科医院 中川 勝

平成15年1月尾形先生から複十字病院登録医会が発足し、その幹事に推薦しておいたと言われました。2月20日（木）が第1回幹事会でした。幹事になるのは結構ですが木曜日は困ると言ったら都合の良い曜日を提案すれば良いと言われました。第1回の会合で代表幹事に杉本先生が桑名先生を、今井先生が私を推しました。桑名先生は私の日大の3年先輩で面識はありませんでしたが大事な時期なので選挙せずに桑名先生に代表幹事をお願いしました。私が副代表幹事となりました。早速、私は幹事会の開催日を火曜日に変更しました。

幹事会の司会は代表幹事がするのですが、桑名先生は忙しく会を欠席する事が多く、私が殆ど司会をしていました。幹事会が終わると院長室に行き尾形先生と30分位駄弁って駅まで車で送って貰いました。第1回総会の話が出たので懇親会はワインパーティにと私が提案しました。その時に西平先生からイル・カバロ・ビヤンコの料理とのコラボの提案が出ました。私は世に言うワインパーティに批判的でした。中身が無い。出るワインが美味しい。是非、美味しいワインで。私は多くのワインパーティを開きましたが、主催は殆ど自分で人様にお金を出して貰う機会は少なく勉強になると判断しました。ワインのラインナップは4種類選び、スタートがスパークリング、2番手が白、3番手が赤、締めがデザート。今迄の総会の懇親会で出したワインで忘れられないのがあります。第1回で提供した白ワイン、ニュージーランドの誇るクラウディ・ベイのシャルドネです。以前、がん研の婦人科部長の荷見先生がニュージーランドのトレッキングに行きたいと私はニュージーランド航空の社長の佐野さんと3人で飲む機会を提供しました。その佐野さんはニュージーランド航空のビジネス・クラスに常時、このワインを提供したいと言っておりました。総会では院長と理事長挨拶だけでしたが第3回から挨拶する機会に恵まれ、私が挨拶しました。桑名先生の仕事が更に忙しくなり平成17年10月に代表幹事になりました。今年の6月で79回の幹事会になりましたが私は全出席です。開業の1/3を占めます。私はどちらかと言うと医師会活動には殆ど関心が無く、只、尊敬する尾形先生に頼まれば引き受けるしかありません。それに尾形先生に迷惑を掛けないように。その後の工藤先生、後藤先生の補佐をしています。年2回は話し合いの場を作っています。これが全てを円滑にしていると思います。



複十字病院の理念

複十字病院は、質の高い温かな医療と看護を提供するとともに、医療連携を推進し地域社会が求める包括的な医療の実現を目指します。

●病院運営の基本方針●

- 呼吸器疾患、がん、生活習慣病を柱とした質の高い温かな医療と看護の充実を図る。
- 国の高度結核専門施設、東京都（肺がん、大腸がん、乳がん）診療連携協力病院としての役割をはたす。
- 複十字病院登録医会を中心とした医療連携を推進し、在宅医療、救急医療、災害時対応など地域医療に貢献する。
- 健診事業を発展させ、疾患の早期発見と予防医療を推進する。
- 複十字病院『患者権利章典』を尊重する。

複十字病院「患者権利章典」

患者のみなさまは、人間としての尊厳のもとに医療を受ける権利があります。医療は患者と病院がお互いの信頼関係のなかで共につくり上げるものであり、みなさまに主体的に参加していただくことが必要です。病院と病院職員は「患者を中心の医療」の理念のもとに、複十字病院『患者権利章典』を守り、みなさまの医療に対する主体的な参加を支援します。

●患者さんの権利●

- 人格を尊重され、思いやりのある最新で最良の医療を受ける権利があります。
- 病気の診断・治療方針・今後の見込みについて知る権利があります。
- 十分な説明を受けた後、ご自身の選択に基づく治療を受け、また、法の許す範囲で拒否する権利があります。
- 他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞く権利があります。
- プライバシーを保護される権利があります。
- ご自身の診療記録、治療費の内容について開示を求める権利があります。
- 退院のことについて指導を受ける権利があります。

●患者さんにご協力いただくこと（責任）●

- ご自身のこれまでの病歴や現在の病状について担当医に詳しくお話し下さい。
- 病気を治すために、ご自身も必要な努力をして下さい。
- 治療を継続して受けられない場合は、担当医師にご相談下さい。
- ご自身や他の方の診療、入院生活に支障を与えないようにして下さい。

人事異動

2015年6月15日～2015年9月14日まで

【採用】

(看護師)	村上真美	7/1
(医師)	宮本牧	7/15
(医師)	竹内均	8/1
(看護師)	川崎ひとみ	8/1
(看護師)	氏家奈美	8/15
(看護師)	山根由美子	9/1

【退職】

(看護師)	吉山敏子	7/31
(看護師)	渡邊一江	8/14
(看護師)	小笠原礼	8/31

【人事発令】

(事務員)	海老澤義行	8/15 経理課長 (配置換え) :
-------	-------	-----------------------

行事予定

1. 呼吸器センター市民公開講座

日 時▶2015年10月17日（土）14:00～
場 所▶アミューホール

2. 乳腺センター市民公開講座

日 時▶2015年11月14日（土）14:00～
場 所▶アミューホール

3. 複十字病院第11回院内発表会

日 時▶12月12日（土）
場 所▶結核研究所 講堂
*詳細は後日ご案内いたします。

年末年始休診

2015年12月30日（水）～2016年1月3日（日）

*診療科ごとに異なる場合があるため、予約センターにて事前にご確認ください。

夏のハートフルコンサート

2015年8月19日（水）午後7時より、当院新外来にて夏のハートフルコンサートが行われました。浴衣を着てのパフォーマンスが、目も耳も楽しませてくれ、その演奏に患者さんから感嘆の声が上がりいました。とてもなごやかなひとときでした。



編集後記

10月！オクトーバー！オクトーバーフェスト！

ドイツ・ミュンヘンで開催される、ビールの醸造シーズンの幕開けを祝うお祭り。

今年は日本全国でも開催されています。様々なドイツビールが味わえます！興味のある方は調べてみてください！

(M)